

大学サッカーのポジションに求められる役割期待とは？

科学コミュニケーションゼミナール 1316069 渡邊 康平

1. 研究動機・研究目的

団体で行うスポーツ競技における勝敗を決める要因は、選手個人の技術や体力・精神的な心理状態、チームの戦術などである。また、スポーツにおいて勝利を目標とする時、個々の団体における役割の適性がチームの状態に非常に影響を与える事は明らかである。バスケットボール、サッカー、ラグビー等の集団で行うボールゲームについては、複数のポジションが存在する。このポジションはプレイヤーの競技中における固定的な役割を規定するものであり、プレイヤーは与えられた役割に沿ってプレーを遂行することが求められる。団体スポーツの役割適性を判断するために必要な情報は、身体的特徴量と心理的特徴量の2つが存在する。現在のサッカー界では、この双方の特徴量を参考に指導者が独自で総合的に判断し、ポジションや役割などの適性を決定している。これまで団体スポーツの身体的特徴や心理的特徴に対するの先行研究やサッカーにおける戦術や指導方法についての先行研究は数多く見られる。しかし、サッカーのポジションにおける役割期待に対するの研究はなく、明らかにされていない。そこで、本研究では大学サッカーのポジション（ゴールキーパー、ディフェンダー、ミッドフィルダー、フォワード）にどのような役割が期待されているのか（役割期待）を明らかにすることを目的とする。

2. 予備調査

本調査をするにあたり予備調査を行った。関東大学サッカーリーグ1部に所属する体育大サッカーチーム部員4名にインタビュー調査を行った。質問内容は「あなたが任されているポジションにおいて期待される能力やチームとしての役割は何ですか？」と「このチームでレギュラーになる為に必要なスキルや能力はどのようなものだと思いますか？」である。インタビューは1人当たり20分程度とした。

インタビュー調査を行った結果28のエピソードを収集した。収集したエピソードから25個の役割期待を抽出した。

3. 本調査方法

関東大学サッカーリーグ1部に所属する体育大サッカー部、部員85名を対象にアンケート調査を実施した。予備調査から、大学サッカーにおける期待される役割期待を25個抽出し、抽出された役割期待をもとに質問紙を作成した。抽出された役割期待は、勤勉さ、責任感、統率力、チャレンジ、自己中心的、独占欲、思い切りの良さ、決断力、柔軟性、適応力、メンタルの強さ、鼓舞する力、戦術眼、リーダーシップ、ムードメーカー、フィジカル、俊敏性、冷静さ、分析力、諦めない、モノ応じない、臨機応変、切り替える、完璧主義、周りを見る。の25個である。25個の役割期待に対し、各ポジションにおいて必要な能力は何ですかという質問に対し当てはまるものにチェックを付けてもらった。

分析方法は、役割期待の回答者に分布を明らかにするため、質問紙の基礎集計を行った。基礎集計結果をもとに大学サッカーにおけるポジションごとの役割期待を検討するため、コレスポネンズ分析を実施した。

4. 結果と考察

アンケート調査の基礎集計の結果、ゴールキーパーに期待する役割に対する一番多い回答は、責任感 (n=76) であり、回答率は 86% であった。ディフェンダーに期待する役割で一番多い回答は、ゴールキーパーと同様の責任感 (n=60) であり、回答率は 80% であった。ミッドフィルダーに期待する役割の一番多い回答は、柔軟性 (n=71) で回答率は 84% で次に 1 回答差で戦術眼 (n=70) が 82% であった。フォワードに期待する役割で一番多い回答は、チャレンジ (n=75) で回答率は 88% であった。

コレスポンデンス分析によって 25 種類の役割期待の構造を検討した。その結果、第 1 軸と第 2 軸の交点の右付近に密集した役割期待を意味付けすることはできなかったが、交点から離れた、GK, DF, MF, FW の 4 つの点でポジションごとに特徴が表れた。

GK 付近に分布したのは、チームに対する役割期待であった。(責任感、鼓舞する力、統率力、リーダーシップ)。DF 付近に分布したのは、個人的な役割とチームに対する役割期待要因であった。(勤勉さ、完璧主義、リーダーシップ、統率力)。MF 付近に分布したのは、チームのリーダーシップ、バランスをとる役割期待であった。(柔軟性、臨機応変、適応力、分析力、戦術眼、周りを見る)。FW 付近に分布したのは、個人的に対する役割期待であった。(独占欲、自己中心的、チャレンジ、おもいきりの良さ)。という結果が表れた。

GK や DF は組織化で守るという事が重要であり、仲間に指示を出すことが求められるので、リーダーシップや統率力という役割が求められているのではないかと考える。また GK は 1 つのミスが失点を招き、チームの勝敗を左右することになる。ゴールキーパーに責任感が生まれてくることは必然ではないかと考える。MF は試合の流れを冷静に判断しコントロールする事が重要であり、常に相手からプレッシャーを受けるポジションであるので、分析力や周りを見るといった役割が期待野ではないかと考える。FW はゴールの近くでプレーするため、必然的に他のポジションより多くのシュートを打つ。何本外しても一本のゴールが評価されるフォワードは何度もチャレンジすることが多くゴールを決めるためにはチャレンジは必要である。また FW は何よりも結果にこだわる、自分がゴールを決めてやるという気持ちが強いため、独占欲、自己中心的という役割が必要であると考えます。

5. 結論

大学サッカーにおける役割期待に対してのアンケートをとり、分析したところポジションによっての役割期待は違うという事が明らかになった。ポジションによっては、直接的にプレーに関与しない役割も期待されているという事が明らかになった。また、今後研究を突き詰めていくことで、大学サッカーのレベル底上げに貢献できる可能性を見出すことが出来た。

6. 卒業論文を書き終えて

本研究を通して、18 年間続けてきたサッカーに対して深く考えるととてもいい機会になりました。サッカーというスポーツがもっとポジションごとにフォーカスし観戦したり、人間性などを考えながら観戦する楽しさというのも今回の研究を通して感じる事が出来ました。大学でサッカーから離れますが、卒業論文という形でサッカーの集大成を飾ることができて良かったです。また、多くの方に協力していただき卒業論文を書き終えることができ、ました。ご協力ありがとうございました。